

生活保護・生活支援施策改善のためのアンケート調査結果

令和元年（2019年）7月

小田原市福祉健康部福祉政策課

目次

1	調査の実施概要.....	1
2	回答者の属性.....	1
3	各設問の回答状況.....	2
4	調査結果から見たこと.....	16
	【参考】アンケート調査用紙と各設問の回答状況.....	17

1 調査の実施概要

(1) 目的

「生活保護行政のあり方検討会報告書」（平成29年4月）に盛り込まれた改善策の提案を踏まえ、市民に開かれた生活保護行政・生活支援策を実現するため、市民の意見を把握し、今後の福祉行政の推進の参考にする。

(2) 実施主体

小田原市・一橋大学大学院社会学研究科市民社会研究センター

(3) 実施期間

平成30年3月～4月

(4) 実施方法

郵便による送付、回収

(5) 対象者

市民10,000人（無作為抽出）

(6) 回答数

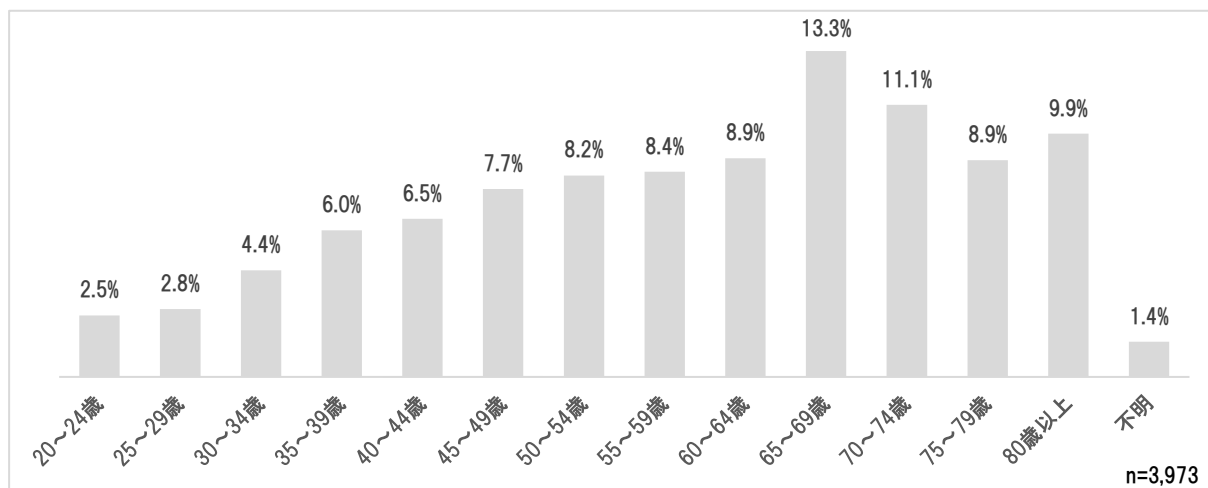
3,973件（回答率39.7%）

2 回答者の属性

(1) 性別（問20-1）



(2) 年齢層（問20-2）

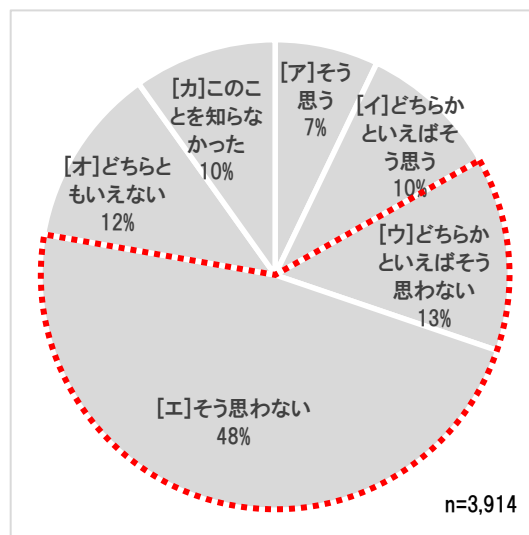


3 アンケート結果の概要

問1 平成29年1月に、本市の生活保護担当職員が「HOGO NAMENNA」（保護なめんな）などと書かれたジャンパーを着用して家庭を訪問するなどしていたことが判明した件について、あなたは、職員によるこのような対応が適切だったと思いますか。

【回答状況】

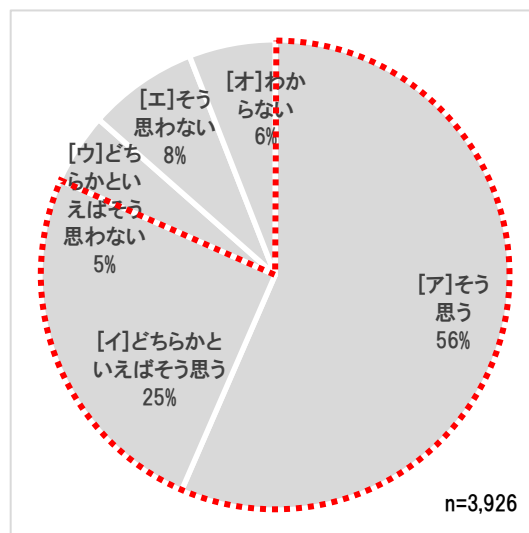
職員の対応は適切ではなかったとする回答が61%と過半数であった一方で、対応が適切だったと考える回答も17%あった。



問2 あなたは、職員の基本姿勢として、生活保護の不正受給に対する厳しい姿勢のあり方は適切だと思いますか。

【回答状況】

不正受給に対する厳しい姿勢のあり方は適切であったとする回答が82%と、大多数を占めた。

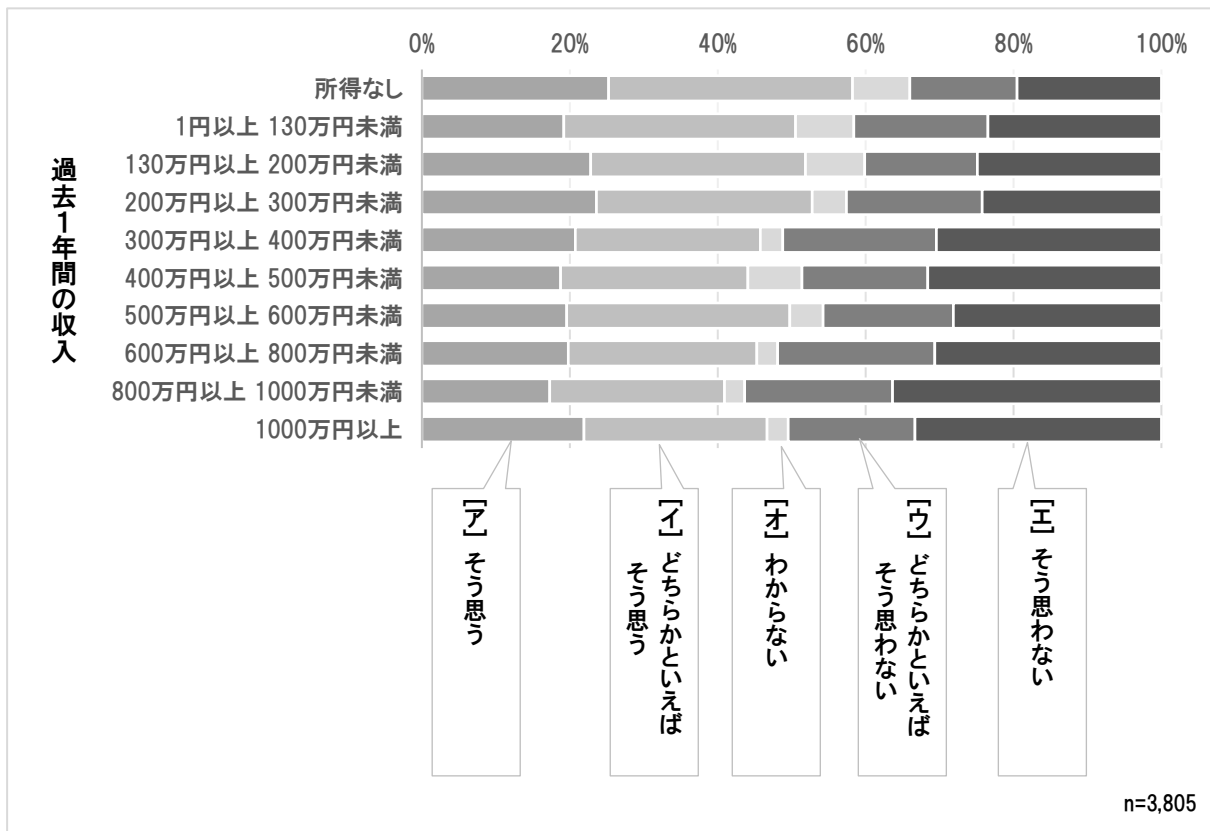
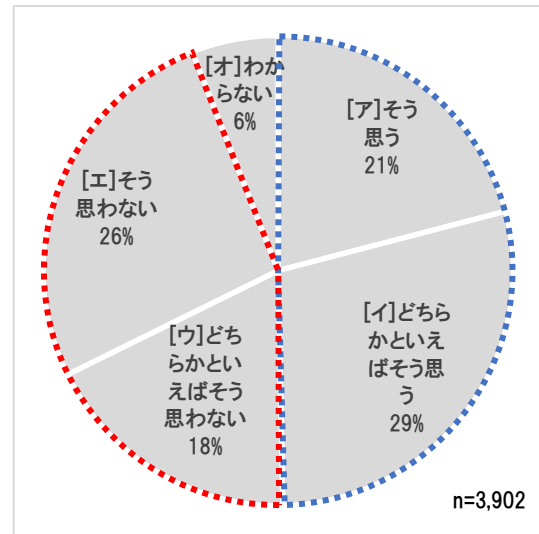


問3 あなたは、生活に困窮した人なら誰でも生活保護を受けられるべきだと思いますか。

【回答状況】

生活に困窮したら誰でも生活保護を受けられるべきだとする回答が50%だったのに対し、これに否定的な回答も44%に達した。

こうした考え方の分布を回答者の年間収入（問20-11）との関係で見ると、生活に困窮すれば誰でも生活保護を受けられるべきだという考えに対しては、高所得者層ほどより批判的な傾向が見られるだけでなく、低所得者層においてもこの考えに賛成しない市民が少なくないことが分かる。



問4 問3でそのように回答された理由について、自由にご記入ください。

【回答状況】

自由記述の設問に対して、407件の回答があった。主な意見は次のとおり。

●生活保護制度に肯定的な意見

- ・色々な事情があり働けないこともあり、食べるにも困っている方もいると思うから。
- ・生活保護は下支えになる。自活が困難な場合は下支えを使って、社会に復帰するため。
- ・生活に困窮したことは、事実として起こってくることなので、理由よりは助けることを優先したい。その上で、その状態から抜け出すことの助けをするべきと思う。
- ・憲法が健康で文化的な最低限度の生活を保障しているから。

●生活保護制度に否定的な意見

- ・最低賃金も高くなり、アルバイトでも十分にやっていける。雇用も多くあり、生活保護を簡単に受けられると働ける人も働かなくなる。
- ・本当に生活に困窮している人は何をもってそう言えるのか、もう一度考えたい。
- ・財政は破綻する。働かない人が増える。行政サービスの品が低下する(財政悪化)。

●理由や条件によって認めるべきとする意見

- ・身体の障害等で働けない人は仕方がないが、そうでない人には生活保護でなく社会復帰するための支援などをした方が良くと思う。
- ・困窮した理由が重要だと思う。やりたい仕事が見つからない、働きたくない等は、受ける資格はないと思うので誰でもではない。
- ・本当に困っているなら保護を受けるべきだが、生活のための努力もしなければいけない。

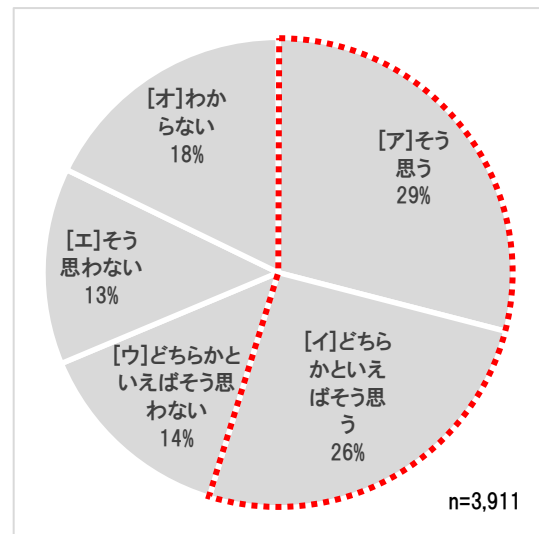
●行政による厳格な制度運用を求める意見

- ・本当に困窮している人が適切に保護を受けられるようにしてほしい。
- ・収入が無く、暮らしができなくても、資産や財産が少しでもあるならば、それが売却等でまかなうか否かを市が審査をしっかりと行うべきだと思う。
- ・生活状況を徹底的に調べ、やむを得ない場合は受けるべきと思う。
- ・本当の困窮かを確かめるべき。その為の職員だと思う。

問5 あなた自身は、生活に困窮したとき、生活保護の利用を希望しますか。

【回答状況】

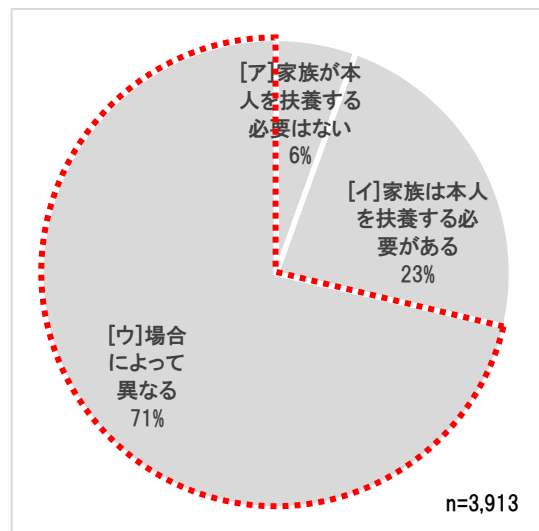
生活に困窮したときには生活保護の利用を希望するとする回答が55%と過半数であるが、希望しないとする回答は27%であった。



問6 生活に困窮している人を家族は扶養すべきでしょうか。あなたの考えに近いものを1つえらんでください。

【回答状況】

場合によって異なるとする人が71%と大半を占めた。

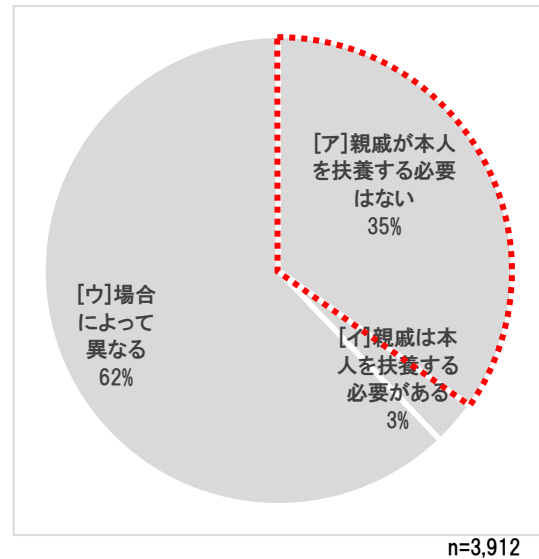


問7 生活に困窮している人を親戚は扶養すべきでしょうか。あなたの考えに近いものを1つえらんでください。

【回答状況】

場合によって異なるとする人が62%と大半を占めた。

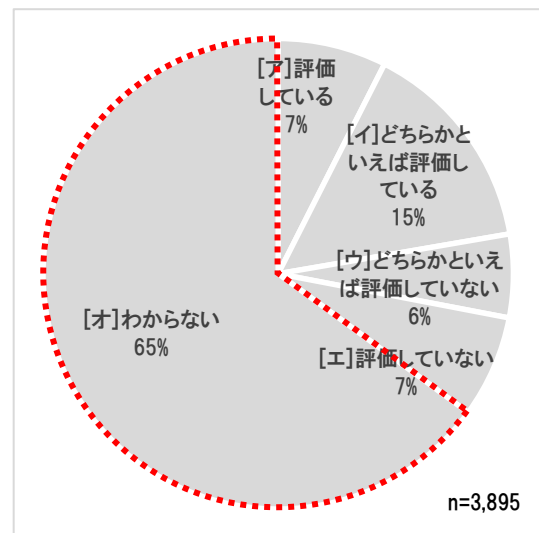
また、問6の結果と比較してみると、親戚が扶養する必要はないとする人が35%で、問6で家族が扶養する必要はないとした人が6%であったのを上回った。



問8 あなたは、平成29年1月のジャンパー等に関する件が起きて以降の、本市の生活保護改革の取り組みについて、どの程度評価していますか。

【回答状況】

本調査を実施した平成30年3月時点で、市の改革の取組がわからないとする人が65%と過半を占めた。



問9 問8でそのように回答された理由について、自由にご記入ください。

【回答状況】

自由記述の設問に対して、346件の回答があった。

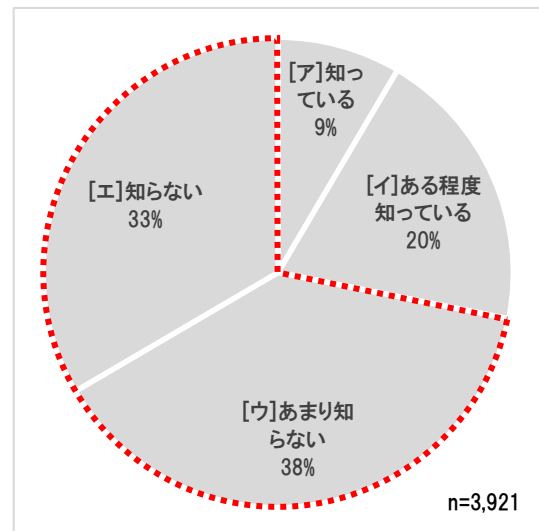
生活保護行政の改善の取組がどのような内容か分からない、事件後の取組には関心がないといった意見が最も多かった。また、なぜこのような事件が起きて、これにどのように対応してきたかといった事件前後の経緯や、改善の取組による成果についても、情報が不足しているとの意見が多かった。

「保護のしおり」の改訂やケースワーカーの増員など、改善の内容を評価する意見はごく少数であった。反対に、問8では「改善の取組を肯定的に評価する」という回答であっても、その理由として、「不正受給に対する厳しい姿勢」を挙げる場合も多く見られた。

問10 あなたは、生活困窮者自立支援制度について知っていますか。

【回答状況】

生活困窮者自立支援制度を知らないという人と、あまり知らないという人を合わせて72%と、市民の大半が知らないという状況であった。



問11 今後の本市の生活保護改革の取り組みについてご意見があれば、自由にご記入ください。

【回答状況】

自由記述の設問に対して、191件の回答があった。主な意見は次のとおり。

●必要な人への適切な支援を望む意見

- ・被保護者については、それぞれ事情が違うと思うが、基本は「愛」の精神で処理して行くべきと思う。人生は悩みやストレスが付いて当然だと思います。
- ・隠れ貧困などもあると聞きますし、手を差し伸べるところには適切な形で手を差し伸べて行ってほしいです。
- ・生活保護イコールお金や物の支給という考えでなく、就労支援なども含め幅広く、その人にあった支援が必要ではないでしょうか。
- ・相談しやすい窓口にしてほしい。適切な援助をアドバイスしてほしい。

●行政職員の自覚を持った取組を望む意見

- ・人権の尊厳をいまいちど考えて行動してもらいたい。
- ・市の行政としての在り方を考えるべきである。言葉の発信や表現、行動等、周りから厳しく見られていることを認識すべきである。
- ・市民全体の生活を考えるならば、初心にかえって熟慮し実施していくべきではないか。
- ・ストレス負荷が高い仕事内容であることは想像に易く、従業員満足度を計測するなどして、健全な職場環境をスタッフ皆さんのメンタルの安定を守ってほしい。

●制度の厳格な運用を望む意見

- ・不正受給、不適切な使用を削減するためにチェック機能を強化してほしい。
- ・生活が困難な人はいっぱいいる中で、小田原市はゆるすぎるのではないか。他の市・町などを参考に、もう一度考えてみるべきと思う。
- ・受給者について、受給する正当な理由があるか、受給後も良く状況を調べていただきたい。
- ・生活困窮者には手を差しのべてあげて欲しい。但し、うまく利用しようとする人たちとの見きわめは大切です。

●生活保護の利用者に働く努力を求める意見

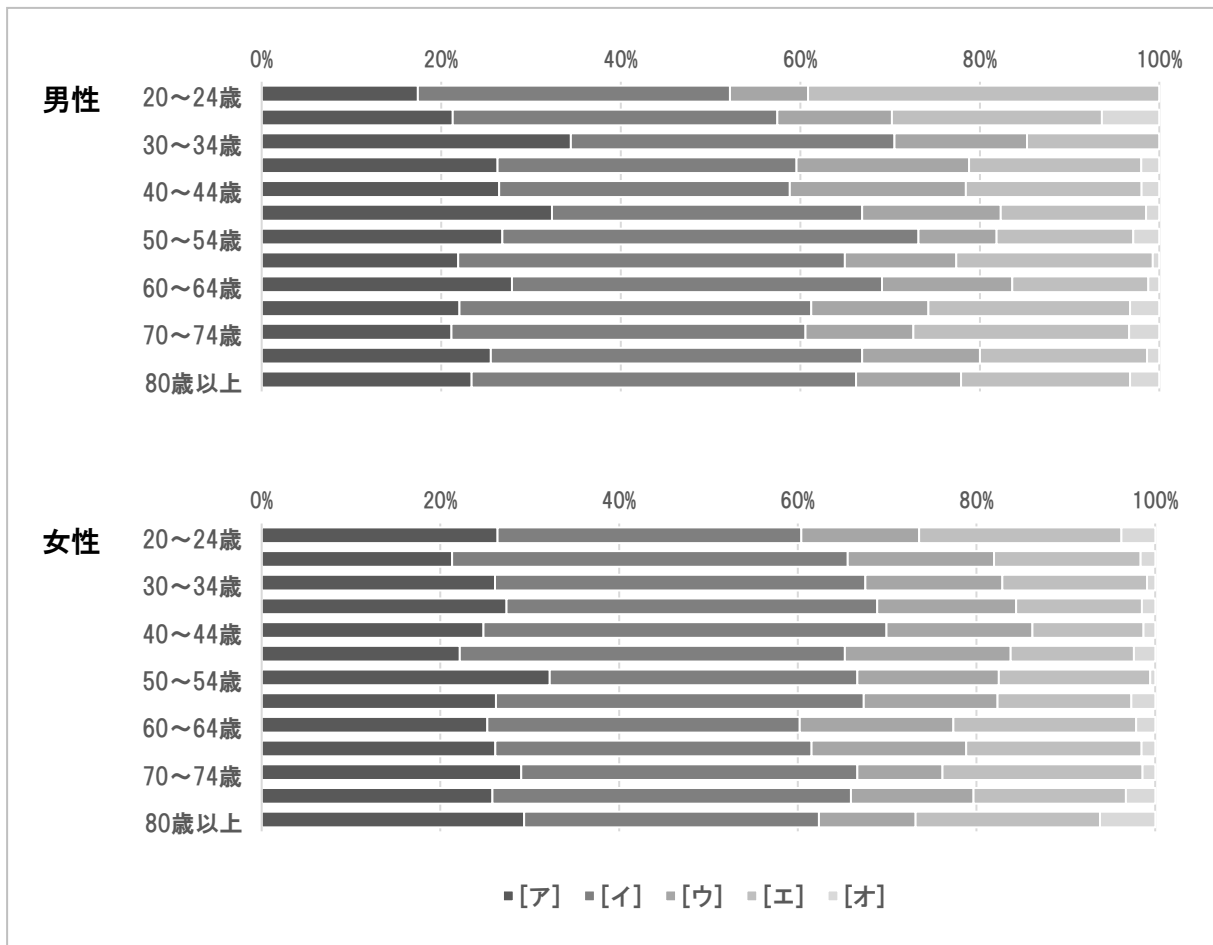
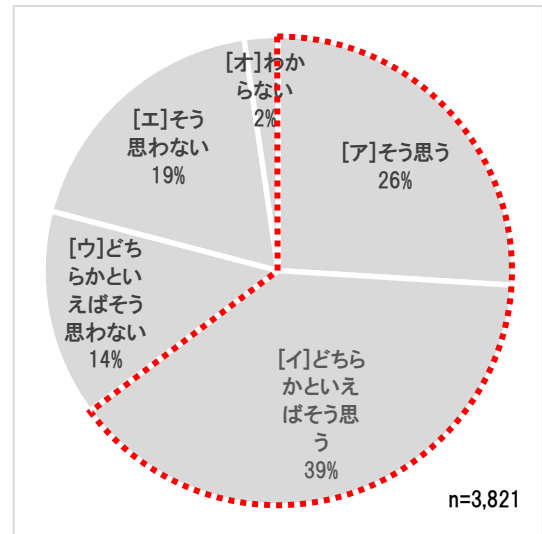
- ・まずは職を探す事、あきらめない。職員も対応すべき。市の予算が減る。
- ・真面目に勤労して生きている者が損をしないような取組み。生活保護受給者の生活支援に重点を置いて、受給者を減らす方向で取組む。
- ・国民が汗水流して働いたお金です。受給者の中で、病気の人を除いてボランティアをやってもらうとか、何でもいいです。やってもらいたい。

問12 あなたは、現在の生活の中で悩みや不安を感じていますか。

【回答状況】

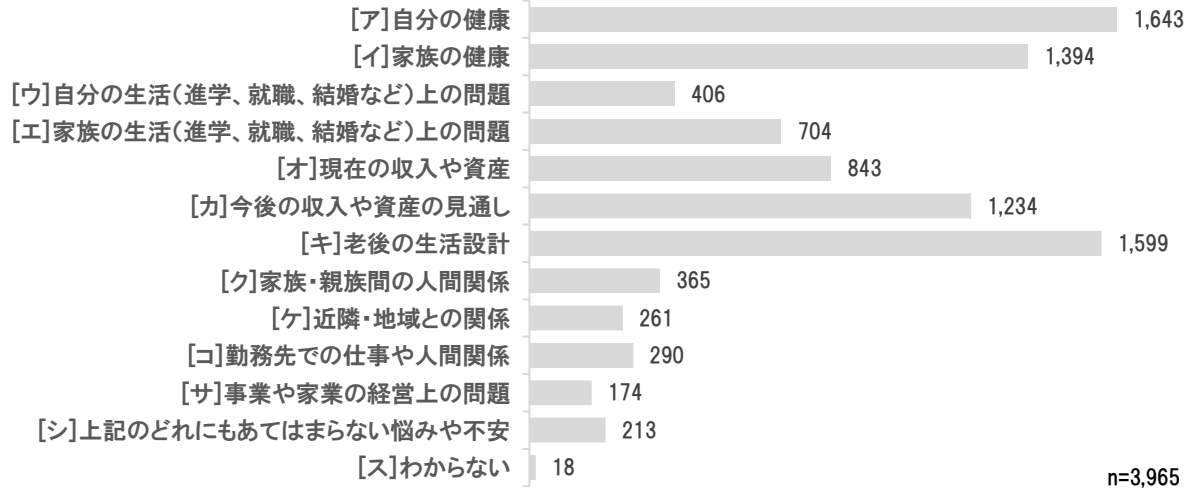
生活の中で何らかの悩みや不安を感じているとする人が、65%と過半を占めた。

性別・年齢階層別では、特に顕著な傾向は見られない。



問13 問12で [ア]、[イ]とお答えになった方に伺います。

悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。該当するものをいくつでもえらんでください。



年齢階層別に回答数が多い項目

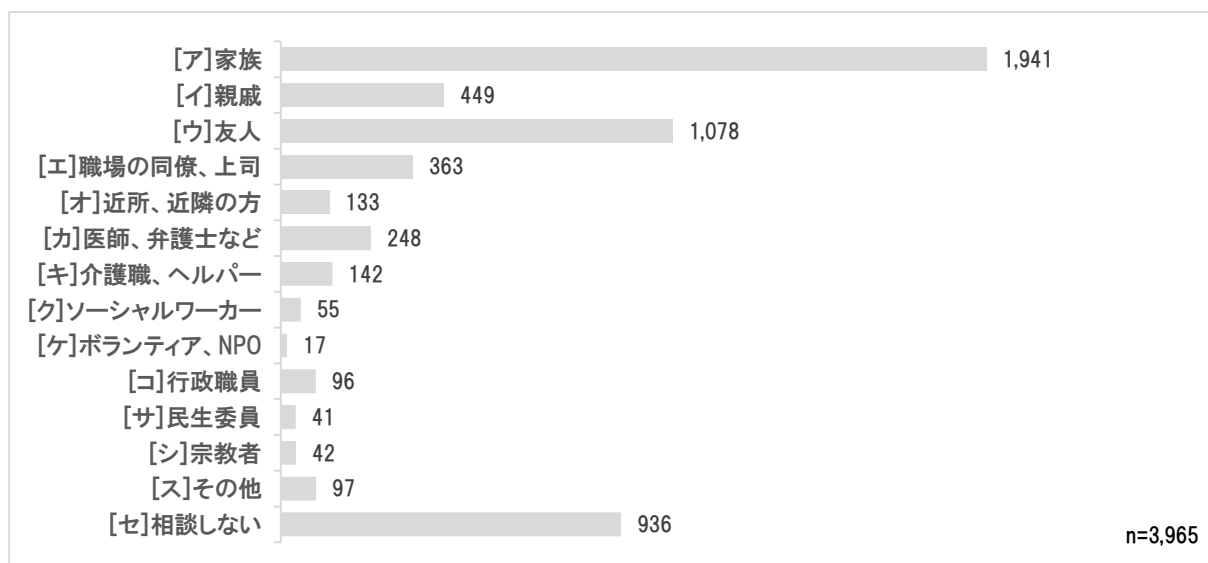
	1 位	2 位
20歳代	[カ]今後の収入や資産の見通し	[ウ]自分の生活上の問題
30歳代	[キ]老後の生活設計	[カ]今後の収入や資産の見通し
40歳代	[キ]老後の生活設計	[カ]今後の収入や資産の見通し
50歳代	[キ]老後の生活設計	[カ]今後の収入や資産の見通し
60歳代	[ア]自分の健康	[キ]老後の生活設計
70歳代	[ア]自分の健康	[イ]家族の健康
80歳以上	[ア]自分の健康	[イ]家族の健康

【回答状況】

「自分の健康」と「老後の生活設計」は、回答者の約40%が悩みや不安を感じている。次いで、「家族の健康」、「今後の収入や資産の見通し」を挙げる人が多い。

年齢階層別にみると、青壮年層では「老後の生活設計」や「今後の収入や資産の見通し」といった経済的な項目が上位であり、老年層では「自分の健康」や「家族の健康」が上位になっている。

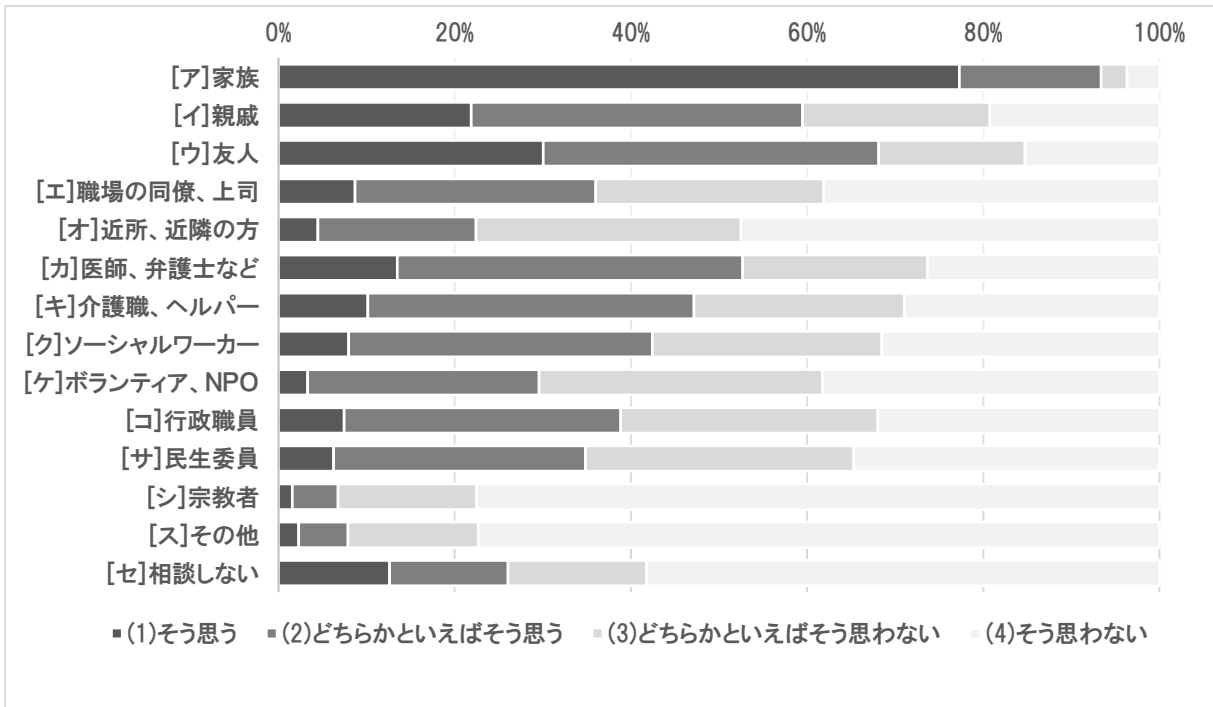
問14 あなたは、生活上の悩みや不安について、これまで誰かに相談したことがありましたか。該当するものをいくつでもえらんでください。



【回答状況】

生活上の悩みや不安について、「家族」、「友人」、「親戚」の順に、相談したことがあるとの回答が多く、「相談しない」という回答も20%余りあった。他方、「近所、近隣の方」への信頼が薄いことも明らかになった。

問15 あなたは、以下に掲げる相談相手は、あなたが生活上の悩みや不安を乗り越えてゆく上で支えになると思いますか。



【回答状況】

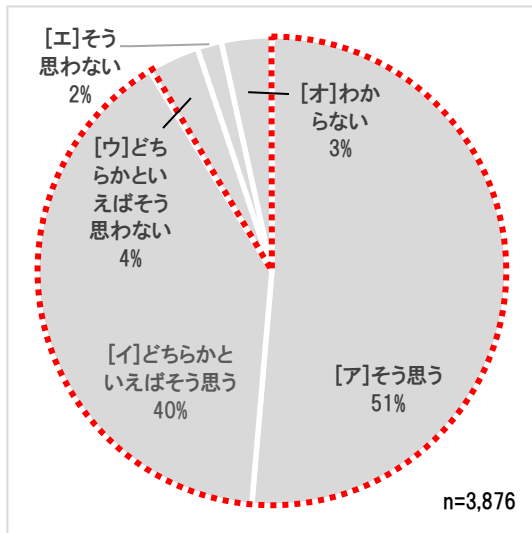
問14と同じ傾向で、支えになるという意味での肯定的な回答の割合が高かったのは、「家族」（93%）、「友人」（68%）、「親戚」（59%）の順であった。

逆に、「介護職・ヘルパー」、「ソーシャルワーカー」、「ボランティア、NPO」、「行政職員」及び「民生委員」は、肯定的な回答の割合が50%を下回り、「近所、近隣の方」は22%にとどまった。

問16 あなた自身は、生活のために努力
をしていると思いますか。

【回答状況】

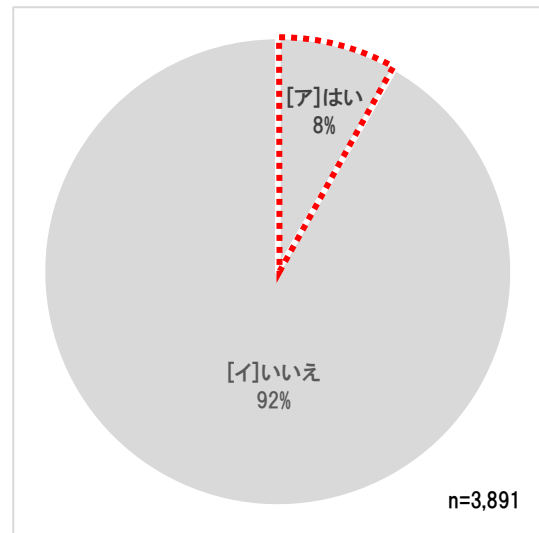
自身の生活のために努力しているとい
う人が91%と大半を占めた。



問18 最近1年以内に、死んでしまいた
いと本気で思ったことはありますか。

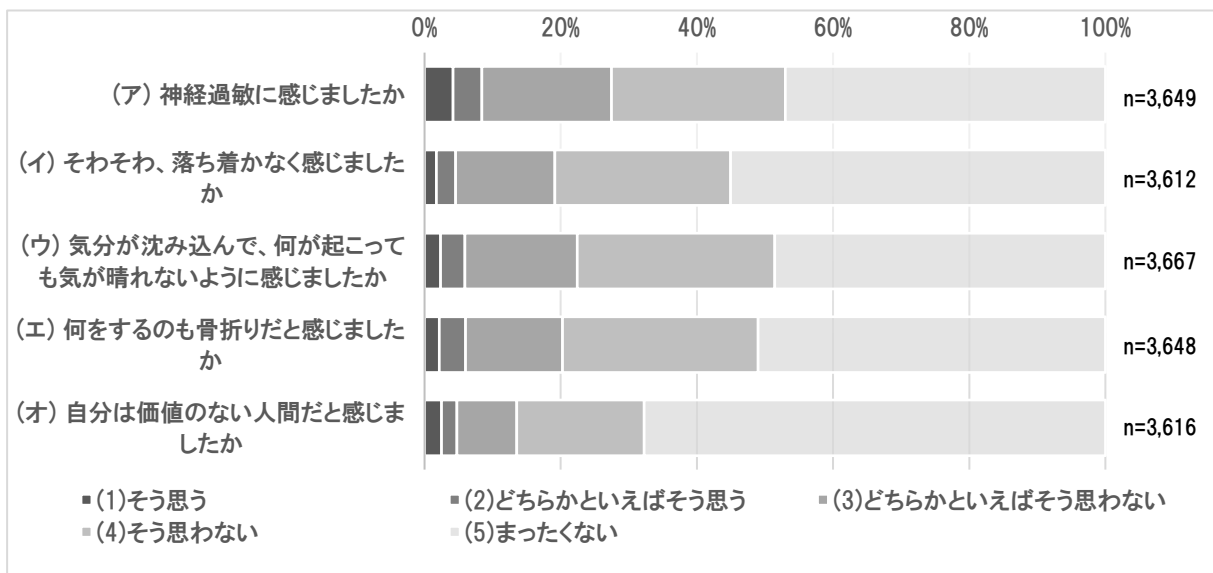
【回答状況】

そう思ったことがあるとする回答が
8%あった。



問17 過去30日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。

※ 次の(ア)～(オ)までの項目について、それぞれ、お答えください。



【回答状況】

すべての項目において、当てはまらないと答える人の割合が90%を超えた。

問19 あなたの生活のために市役所にどのような役割を期待しますか。自由にご記入ください。

【回答状況】

自由記述の設問に対して、271件の回答があった。主な意見は次のとおり。

●生活保護行政に関する意見

- ・問題となったジャンパーの件は、担当部署の責任で片付けてしまうのではなく、市役所全体の問題として取り組むべき。
- ・不正受給は絶対にゆるしてはいけない！不正受給者ゼロとなるよう、厳しい審査をお願いします。
- ・誠実かつ公平な職務の遂行を期待します。
- ・困っている市民に対して安心して生活ができるようにサポートしてほしい。

●各種の福祉・子育てサービス等に関する意見

- ・介護者の為に退職せざるを得ないとは共倒れという家庭が多い。老々介護を少なくするための制度を期待します。
- ・市民の健康増進対策をより期待します。
- ・益々高齢化が進むので近くで楽しく集える場所の提供をお願いしたいと思います。
- ・待機児童の問題や子育てに掛かる費用の補助、これからは担っていく子供たちの為に、やるべき事をやっていって欲しい。

●その他の行政サービスに関する意見

- ・生活環境の保護・改善。地域の特色を生かした街作り。
- ・ライフラインの整備とか、道路、公園、公共施設の使いやすさとか、安全な環境を守って下さい。
- ・災害時の対応。橋・道路の修復。キケン箇所の対応。市民の安全確保。
- ・子供たちのために公園を増やすこと、衛生・安全面の向上、特に歩道の確保。

●職員の態度や姿勢に関する意見

- ・本当に困ったときには、親身になって相談に乗っていただけたらと思います。
- ・明るく行きやすく何でも相談しやすい場所になって欲しいです。
- ・何か手続きなどがある場合、わかりやすく親切に対応していただきたいと思います。
- ・もう少し各家庭に寄り添った身近な役割を期待したい。
- ・わからないこと、わかりづらいことを相手に合わせたわかりやすい説明ができる。専門の知識が豊富な職員の育成を期待します。

●行政からの情報提供に関する意見

- ・制度や改革などやっているようだが市民にほとんど周知されていないのでは？
- ・もっと分かりやすいHP作りを!!
- ・今のところ普段の生活では家族友人とで解決できる事がほとんどですが、こらからは何か発生した場合、行政に頼ると思う。その為の情報に常に発信されていればよいと思う。
- ・小田原市の制度がわからない。知らないです。生活で困った時には、どの窓口で、どんな制度があるか、わかりやすく市民に知らせてください。

●行政改革や事務改善に関する意見

- ・無駄をはぶき、納税者により良いサービスを。
- ・税金の使い方。全ての部、課に充当された金額を全額使いきれない時は、繰り越し制度を設けてほしい。民間で行える仕事は、民間に託した方がよい。
- ・税の活用は家計簿と同じ。時間をかけて1項目ごとに洗い返す作業が必要。

●その他の意見

- ・制度がよくわからないので、あまり期待していません。
- ・現在不自由を感じていないのでよく解らない。

4 調査結果からみえてきたこと

(1) いわゆる「ジャンパー」事件への対応について

平成29年1月に本市の生活保護担当職員が「HOGO NAMENNA」（保護なめんな）などと書かれたジャンパーを着用して家庭を訪問するなどしていたことが明らかになった件について、問1への回答から、今回のアンケートにおいても市民が市に対して厳しい目を向けていることが明らかになった。本市としては、本調査を実施するまでの1年間、このような不祥事の再発を予防するための努力をしてきたところであるが、問8の回答からも分かるように、それは目に見える成果を上げていると評価されたとは言えない。これらの結果は、市民が、本市に対して、なお一層の努力を求めていることを示すものと考えられる。

(2) 生活保護の利用に対する市民の意識

問3及び問4は、生活保護法の基本原理の一つである無差別平等原則（生活に困窮するすべての国民は、法の定める要件を満たす限り、法による保護を無差別平等に受けることができるというもので、日本国憲法第25条の理念であるとともに、生活保護法の根幹の原則の1つとなっている）について、市民の意識を尋ねたものである。結果としては、市民の間で、生活保護の利用に関する意識が大きく割れていることが明らかになった。具体的には、無差別平等原則に賛成する市民が50%であったのに対し、生活保護の利用について反対ないし条件付きでの利用を支持する市民も44%にのぼっている。問4の自由記述への回答においても、市民の間に認識の相違があることが確認された。

この点は、本市の市民が全体として、貧困の状態に陥った人々やその可能性のある人々にどのように向き合うのか、という大きな課題に対して、いまだ明確な合意に達していないことを示すと考えられる。また、このような合意が欠けていることが、市職員がいわゆる「ジャンパー」事件を引き起こしたことの背景の一つとなっている可能性もある。さらに所得の違いによって、生活保護に対する態度の違いが見られるという点は、本市において生活に困窮している人々のリアリティが市民全体に伝わっていないことを表すものと考えられる。

以上を踏まえるとき、本市が標榜する「誰もが生涯を通じて安心していきいきと暮らすことのできるまち」を実現するためにも、中長期的な観点から、市民間における貧困や生活保護に関するコミュニケーションを促進していくことが求められる状況であると言える。

(3) 現在の小田原市民の生活状況・不安について

現在の小田原市民の生活状況について注目される回答として、問14及び問15において、市民が生活上の悩みや不安を相談する相手として、もっぱら家族や友人を挙げる一方で、近所、近隣の人々には大きな期待を寄せていないことが明らかになった点がある。これは、従来の各地域のコミュニティが、住民相互の支え合う力を失いつつあるという大きな課題に直面していることを示していると思われる。また、行政やその他の専門職についても、市民の支えとしてはまだ十分に機能していないということも明らかになったと言える。

【参考】アンケート調査用紙と各設問の回答状況

生活保護・生活支援施策改善のための市民アンケート調査

小田原市

一橋大学大学院社会学研究科市民社会研究センター

アンケートご協力をお願い

小田原市では、「生活保護行政のあり方検討会」からの改善策の提案を踏まえ、市民にひらかれた生活保護行政・生活支援施策を実現するために、市民のみなさまのご意見を伺うことといたしました。

みなさまからのアンケートのご回答とご意見を参考に、今後の福祉行政を推進して参りたいと存じます。

なお、このアンケートにご記入いただいた情報は、生活保護行政・生活支援施策の改善等を目的とした統計資料の作成以外には使用いたしません。また、アンケートに回答された個人が特定されたり、特定の個人に不利益が生じたりすることはありませんので、ありのままをご記入ください。

このアンケート調査の分析は、本市及び一橋大学大学院社会学研究科市民社会研究センターが行い、結果については速やかにホームページ上で公開するものといたします。

ご回答に当たってのお願い

- このアンケートは、平成30年2月1日時点で小田原市に住民登録がある20歳以上の方から無作為に抽出した13,000人の方を対象に実施しています。
- アンケートは、封筒の宛名となっている方がご回答ください。
(平成30年2月1日現在でご記入ください)
- ご回答は、アンケート用紙に直接記入してください。
- 回答のしかたは、あてはまる記号を選んで回答欄○をつけるものと、空欄に自由に記載するものがあります。

返信方法について

同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**平成30年3月20日までに郵便ポスト**に投函いただければ幸いです。

※ご質問やご意見につきましては、小田原市福祉健康部福祉政策課までお問い合わせください。

小田原市福祉健康部福祉政策課
神奈川県小田原市荻窪300
0465-33-1861（直通）

一橋大学大学院社会学研究科市民社会研究センター
東京都国立市中2-1

※ アンケート調査の対象者数と回答期限の記載に誤りがあったため、訂正シールを貼付して対応した。

—お詫び—

アンケートの実施について、次のとおり訂正をさせていただくとともに、お詫び申し上げます。

- ①【対象者数】
13,000人 (誤) ⇒ 10,000人 (正)
- ②【希望回答期限】
平成30年3月20日 (誤) ⇒ 3月31日 (正)

せい かつ ほ ご せい かつ し え ん せ さ く かい ぜん ち ょ う き
生活保護・生活支援施策改善のためのアンケート調査

じ っ し し ゆ たい お だ わ ら し ひ と つ ば し だ い が く だ い が く い ん し ゃ か い が く け ん き ゅ う か し み ん し ゃ か い け ん き ゅ う
 実施主体：小田原市・一橋大学大学院社会学研究科市民社会研究センター

つ ぎ せ つ も ん せ ん た く し ば あ い かい とう ら ん き に ゆ う
 次の設問に、選択肢がある場合は、回答欄に○印を記入してください。

た ば あ い かい とう ら ん じ ゆ う き に ゆ う
 その他の場合は、回答欄に自由に記入してください。

1. へ い せい ね ん が つ ほ ん し せい かつ ほ ご た ん とう し ゅ く い ん ほ ご
 平成29年1月に、本市の生活保護担当職員が「HOGO NAMENNA」（保護なめんな）などと
 か ち ゃ く じ ゃ う か て い け ん とう も ん ほ ん め い け ん
 書かれたジャンパーを着用して家庭を訪問するなどしていたことが判明した件について、
 あ な た は、 し ゅ く い ん たい お う て き せ つ お も
 あなたは、職員によるこのような対応が適切だったと思いますか。

かい とう ら ん 回答欄	
279 (7.1%)	(ア) そう思う
381 (9.7%)	(イ) どちらかといえばそう思う
523 (13.4%)	(ウ) どちらかといえばそう思わない
1,861 (47.5%)	(エ) そう思わない
484 (12.4%)	(オ) どちらともいえない
386 (9.9%)	(カ) このことを知らなかった

回答数 3,914

2. し ゅ く い ん き ほん し せい せい かつ ほ ご ふ せい じ じ ゅ き ゅ う たい き び し せい か た
 あなたは、職員の基本姿勢として、生活保護の不正受給に対する厳しい姿勢のあり方は
 て き せ つ お も
 適切だと思いますか。

かい とう ら ん 回答欄	
2,219 (56.5%)	(ア) そう思う
985 (25.1%)	(イ) どちらかといえばそう思う
192 (4.9%)	(ウ) どちらかといえばそう思わない
297 (7.6%)	(エ) そう思わない
233 (5.9%)	(オ) わからない

回答数 3,926

3. あなたは、生活に困窮した人なら誰でも生活保護を受けられるべきだと思いますか。

かいとうらん 回答欄	
817 (20.9%)	(ア) そう思う
1,122 (28.8%)	(イ) どちらかといえばそう思う
703 (18.0%)	(ウ) どちらかといえばそう思わない
1,028 (26.3%)	(エ) そう思わない
232 (5.9%)	(オ) わからない

回答数 3,902

4. 3. でそのように回答された理由について、自由にご記入ください。

かいとうらん 回答欄 (自由記載)
回答数 407件

5. あなた自身は、生活に困窮したとき、生活保護の利用を希望しますか。

かいとうらん 回答欄	
1,135 (29.0%)	(ア) そう思う
1,006 (25.7%)	(イ) どちらかといえばそう思う
545 (13.9%)	(ウ) どちらかといえばそう思わない
529 (13.5%)	(エ) そう思わない
696 (17.8%)	(オ) わからない

回答数 3,911

6. 生活に困窮している人を家族は扶養すべきでしょうか。あなたの考えに近いものを1つえらんでください。

かいとうらん 回答欄	
216 (5.5%)	(ア) 家族が本人を扶養する必要はない
904 (23.1%)	(イ) 家族は本人を扶養する必要がある
2,793 (71.4%)	(ウ) 場合によって異なる

回答数 3,913

7. 生活に困窮している人を親戚は扶養すべきでしょうか。あなたの考えに近いものを1つえらんでください。

かいとうらん 回答欄	
1,360 (34.8%)	(ア) 親戚が本人を扶養する必要はない
121 (3.1%)	(イ) 親戚は本人を扶養する必要がある
2,431 (62.1%)	(ウ) 場合によって異なる

回答数 3,912

8. あなたは、平成29年1月のジャンパー等に関する件が起きて以降の、本市の生活保護改革の取り組みについて、どの程度評価をしていますか。1つえらんでください。

かいとうらん 回答欄	
291 (7.5%)	(ア) 評価している
577 (14.8%)	(イ) どちらかといえば評価している
223 (5.7%)	(ウ) どちらかといえば評価していない
274 (7.0%)	(エ) 評価していない
2,530 (65.0%)	(オ) わからない

回答数 3,912

9. 8.でそのように回答された理由について、自由にご記入ください。

かいとうらん 回答欄 (自由記載)
回答数 346 件

10. あなたは、生活困窮者自立支援制度について知っていますか。

かいとうらん 回答欄	
333 (8.5%)	(ア) 知っている
771 (19.7%)	(イ) ある程度知っている
1,506 (38.4%)	(ウ) あまり知らない
1,311 (33.4%)	(エ) 知らない

回答数 3,921

11. 今後の本市の生活保護改革の取り組みについてご意見があれば、自由にご記入ください。

かいとうらん 回答欄 (自由記載)
回答数 191 件

12. あなたは、現在の生活の中で悩みや不安を感じていますか。

質問項目	かいとうらん 回答欄	おも
しつもんこうもく 質問項目 13へ	993 (26.0%)	(ア) そう思う
	1,484 (38.8%)	(イ) どちらかといえばそう思う
しつもんこうもく 質問項目 14へ	545 (14.3%)	(ウ) どちらかといえばそう思わない
	710 (18.6%)	(エ) そう思わない
	89 (2.3%)	(オ) わからない

回答数 3,821

13. 12. で (ア)、(イ) とお答えになった方に伺います。

悩みや不安を感じているのはどのようなことについてですか。該当するものをいくつかでもえらんでください。

かいとうらん 回答欄	おも
1,643 (41.4%)	(ア) 自分の健康について
1,394 (35.2%)	(イ) 家族の健康について
406 (10.2%)	(ウ) 自分の生活 (進学、就職、結婚など) 上の問題について
704 (17.8%)	(エ) 家族の生活 (進学、就職、結婚など) 上の問題について
843 (21.3%)	(オ) 現在の収入や資産について
1,234 (31.1%)	(カ) 今後の収入や資産の見通しについて
1,599 (40.3%)	(キ) 老後の生活設計について
365 (9.2%)	(ク) 家族・親族間の人間関係について
261 (6.6%)	(ケ) 近隣・地域との関係について
290 (7.3%)	(コ) 勤務先での仕事や人間関係について
174 (4.4%)	(サ) 事業や家業の経営上の問題について
213 (5.4%)	(シ) 上記のどれにもあてはまらない悩みや不安
18 (0.5%)	(ス) わからない

回答数 3,965

14. あなたは、生活上の悩みや不安について、これまで誰かに相談したことがありましたか。
 該当するものをいくつでもえらんでください。

かいとうらん 回答欄	
1,941 (49.0%)	(ア) 家族
449 (11.3%)	(イ) 親戚
1,078 (27.2%)	(ウ) 友人
363 (9.2%)	(エ) 職場の同僚、上司
133 (3.4%)	(オ) 近所、近隣の方
248 (6.3%)	(カ) 医師、弁護士など
142 (3.6%)	(キ) 介護職、ヘルパー
55 (1.4%)	(ク) ソーシャルワーカー
17 (0.4%)	(ケ) ボランティア、NPO
96 (2.4%)	(コ) 行政職員
41 (1.0%)	(サ) 民生委員
42 (1.1%)	(シ) 宗教者
97 (2.4%)	(ス) その他
936 (23.6%)	(セ) 相談しない

回答数 3,965

15. あなたは、以下に掲げる相談相手は、あなたが生活上の悩みや不安を乗り越えてゆく上で支えになるとおもうと思いますか。

※次の(ア)～(セ)までの相談相手について、それぞれ、お答えください。

	かいとうらん 回答欄				回答数
	おもう そう思う	どちらかとい おもう えばそう思う	どちらかといえ おもう ばそう思わない	そう おもう 思わない	
(ア) 家族	2,794 (77.3%)	581 (16.1%)	107 (3.0%)	132 (3.7%)	3,614
(イ) 親戚	703 (21.9%)	1,208 (37.6%)	683 (21.3%)	618 (19.2%)	3,212
(ウ) 友人	979 (30.0%)	1,242 (38.1%)	541 (16.6%)	497 (15.3%)	3,259
(エ) 職場の同僚、上司	237 (8.7%)	747 (27.3%)	707 (25.9%)	1,042 (38.1%)	2,733
(オ) 近所、近隣の方	132 (4.5%)	529 (18.0%)	887 (30.1%)	1,399 (47.5%)	2,947
(カ) 医師、弁護士など	394 (13.5%)	1,146 (39.2%)	613 (21.0%)	770 (26.3%)	2,923
(キ) 介護職、ヘルパー	289 (10.1%)	1,056 (37.0%)	681 (23.9%)	825 (28.9%)	2,851
(ク) ソーシャルワーカー	218 (8.0%)	942 (34.5%)	713 (26.1%)	861 (31.5%)	2,734
(ケ) ボランティア、NPO	90 (3.3%)	716 (26.3%)	876 (32.1%)	1,043 (38.3%)	2,725
(コ) 行政職員	209 (7.5%)	881 (31.4%)	818 (29.2%)	897 (32.0%)	2,805
(サ) 民生委員	176 (6.2%)	807 (28.6%)	860 (30.5%)	979 (34.7%)	2,822
(シ) 宗教者	29 (1.6%)	95 (5.2%)	289 (15.7%)	1,424 (77.5%)	1,837
(ス) その他	42 (2.3%)	102 (5.6%)	270 (14.8%)	1,412 (77.3%)	1,826
(セ) 相談しない	229 (12.6%)	244 (13.4%)	286 (15.7%)	1,057 (58.2%)	1,816

16. あなたご自身は、生活のために努力をされているとおもうと思いますか。

かいとうらん 回答欄	
1,991 (51.4%)	(ア) そう思う
1,547 (39.9%)	(イ) どちらかといえ おもう ばそう思う
139 (3.6%)	(ウ) どちらかといえ おもう ばそう思わない
65 (1.7%)	(エ) そう思わない
134 (3.5%)	(オ) わからない

回答数 3,876

17. 過去30日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。

※次の(ア)～(オ)までの項目について、それぞれ、お答えください。

	回答欄					回答数
	いつも	たいてい	ときどき	すこしだけ	まったくない	
(ア) 神経過敏に感じましたか	152 (4.2%)	155 (4.2%)	695 (19.0%)	931 (25.5%)	1,716 (47.0%)	3,649
(イ) そわそわ、落ち着かなく感じましたか	63 (1.7%)	102 (2.8%)	526 (14.6%)	933 (25.8%)	1,988 (55.0%)	3,612
(ウ) こっども気が晴れないように感じましたか	87 (2.4%)	131 (3.6%)	604 (16.5%)	1,065 (29.0%)	1,780 (48.5%)	3,667
(エ) 何をするのも骨折りだと感じましたか	79 (2.2%)	141 (3.9%)	520 (14.3%)	1,048 (28.7%)	1,860 (51.0%)	3,648
(オ) 自分は価値のない人間だと感じましたか	91 (2.5%)	81 (2.2%)	317 (8.8%)	677 (18.7%)	2,450 (67.8%)	3,616

18. 最近1年以内に、死んでしまいたいと本気で思ったことはありますか。

該当するものをえらんでください。

回答欄	
324 (8.3%)	(ア) はい
3,567 (91.7%)	(イ) いいえ

回答数 3,891

19. あなたの生活のために市役所にどのような役割を期待しますか。自由にご記入ください。

回答欄 (自由記載)
回答数 271件

20. 最後に、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについて伺います。

なお、得た情報は個人を特定するものではなく、またそのような目的で利用することは決してありません。

20-1 性別をお答えください。

かいとうらん 回答欄			
1,727 (43.5%)	(ア)	男性	不明 72 (1.8%)
2,174 (54.7%)	(イ)	女性	回答数 3,973

20-2 現在、あなたのお年は満で何歳ですか。

かいとうらん 回答欄			
100 (2.5%)	(ア)	20～24歳	
110 (2.8%)	(イ)	25～29歳	
173 (4.4%)	(ウ)	30～34歳	
238 (6.0%)	(エ)	35～39歳	
257 (6.5%)	(オ)	40～44歳	
305 (7.7%)	(カ)	45～49歳	
327 (8.2%)	(キ)	50～54歳	
333 (8.4%)	(ク)	55～59歳	
355 (8.9%)	(ケ)	60～64歳	
529 (13.3%)	(コ)	65～69歳	
442 (11.1%)	(サ)	70～74歳	
352 (8.9%)	(シ)	75～79歳	
395 (9.9%)	(ス)	80歳以上	

57 (1.4%) 不明

回答数 3,973

20-3 あなたのお仕事についてお伺いします。あなたは、次のどれにあたりますか。

質問項目	回答欄	
しつもんこうもく 質問項目 20-4へ	1,029 (26.7%)	(ア) 被雇用者 (正規従業員)
	678 (17.6%)	(イ) 被雇用者 (非正規従業員)
	335 (8.7%)	(ウ) 自営業 (内職者を含む。)
しつもんこうもく 質問項目 20-5へ	83 (2.2%)	(エ) 家族従業者
	869 (22.5%)	(オ) 主婦
	861 (22.3%)	(カ) 無職 (主婦を除く)

回答数 3,855

20-4 20-3で (ア)、(イ)、(ウ)、(エ) と答えた人に伺います。

あなたのお仕事の内容は、次のどれにあたりますか。

回答欄	
261 (12.4%)	(ア) 管理職
628 (29.8%)	(イ) 専門職・技術職
340 (16.1%)	(ウ) 事務職
513 (24.3%)	(エ) 販売・サービス・保安職
78 (3.7%)	(オ) 農林漁業職
290 (13.7%)	(カ) 生産・輸送・建設・労務職

回答数 2,110

20-5 あなたの家族は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。

回答欄	
459 (12.4%)	(ア) 1人世帯
1,020 (27.4%)	(イ) 1世代の世帯 (夫婦のみ)
1,689 (45.5%)	(ウ) 2世代の世帯 (親と子)
418 (11.2%)	(エ) 3世代の世帯 (親と子と孫)
130 (3.5%)	(オ) その他の世帯

回答数 3,716

20-6 あなたは、結婚していらっしゃいますか。次から1つお答えください。

かいとうらん 回答欄	
2,700 (69.4%)	(ア) 既婚 (配偶者あり)
587 (15.1%)	(イ) 既婚 (離別・死別)
602 (15.5%)	(ウ) 未婚

回答数 3,889

20-7 あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。

成人しているお子さんや別居しているお子さんも含めてお答えください。

かいとうらん 回答欄	
2,963 (76.1%)	(ア) 子どもがいる
930 (23.9%)	(イ) 子どもがいない

回答数 3,893

20-8 あなたにはお子さん以外に、日頃、介護や日常の世話をしている家族がいますか。

かいとうらん 回答欄	
864 (22.3%)	(ア) いる
3,015 (77.7%)	(イ) いない

回答数 3,879

20-9 あなたの世帯を主に支えていらっしゃるの、あなたですか、他の方ですか。

かいとうらん 回答欄	
2,108 (54.9%)	(ア) 回答者本人
1,729 (45.1%)	(イ) 回答者本人以外

回答数 3,837

20-10 今のお住まいを次のように分類した場合、どれにあたりますか。

かいとうらん 回答欄	
2,868 (73.5%)	(ア) 持家 (一戸建て)
215 (5.5%)	(イ) 持家 (マンションなどの集合住宅)
126 (3.2%)	(ウ) 賃貸住宅 (一戸建て)
566 (14.5%)	(エ) 賃貸住宅 (マンション、アパート)
35 (0.9%)	(オ) 社宅 (勤務先が提供する住居等)
93 (2.4%)	(カ) その他

回答数 3,903

20-11 過去1年間のあなたの収入（年収・年金を含む）は、次のどれにあたりますか。

かいとうらん 回答欄	
299 (7.8%)	(ア) 所得なし
1,026 (26.6%)	(イ) 1円 ~ 130万円未満
497 (12.9%)	(ウ) 130万円以上 ~ 200万円未満
686 (17.8%)	(エ) 200万円以上 ~ 300万円未満
427 (11.1%)	(オ) 300万円以上 ~ 400万円未満
294 (7.6%)	(カ) 400万円以上 ~ 500万円未満
200 (5.2%)	(キ) 500万円以上 ~ 600万円未満
213 (5.5%)	(ク) 600万円以上 ~ 800万円未満
110 (2.9%)	(ケ) 800万円以上 ~ 1,000万円未満
105 (2.7%)	(コ) 1,000万円以上

回答数 3,857

質問は、以上です。

ご回答いただきまして、ありがとうございました。

なお、このアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに返信くださるようお願いいたします。

